



日頃、先生方には地域医療連携パスかかりつけ医として大変お世話になっております。お陰さまで2008年「胸痛センター」開設以来、多くの患者さんをご紹介いただいております。先生方と共に地域の循環器医療に貢献できることを光栄に思い、引き続き365日・24時間体制で最良の医療をご提供させていただく所存です。

今年は増加し続ける患者さんに対応するために、第4血管造影室を増設することになりました。併せて、不整脈治療のためのエンサイトシステム、冠動脈評価のためのOCTシステムを県内で初めて導入します。非侵襲的検査においては、三次元（3D）心エコーを2台設置し、より一層の充実をはかります。また、4月から心臓リハビリテーションを本格的に開始するための機器も整備中です。さらに、患者さんの利便性を考慮し、日帰り心臓カテーテル検査も開始します。

今年も「信大病院で国内最高レベルの循環器医療を提供する」ことを目指して教室員一同邁進してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

2010年2月吉日
信州大学循環器内科
池田宇一

「病診連携心エコー外来」より

「病診連携心エコー外来」は先生方から検査をご依頼いただいた患者さんを対象に、毎週（水）午後、専門医が心エコー検査を行い、当日中に治療のアドバイスを含む検査結果をご報告する外来です。当日の紹介受診でも結構ですし、予約も可能です（循環器内科病診連携室 37-3487）。

これまで多くの患者さんをご紹介いただきありがとうございます。第5回病診連携パス勉強会において、経験した症例の一部をご紹介し、先生方と情報を共有できればと思っています。

第5回循環器連携パス勉強会

2010年4月27日（火）19時～20時30分

会場：ホテルブエナビスタ 2Fメディアール

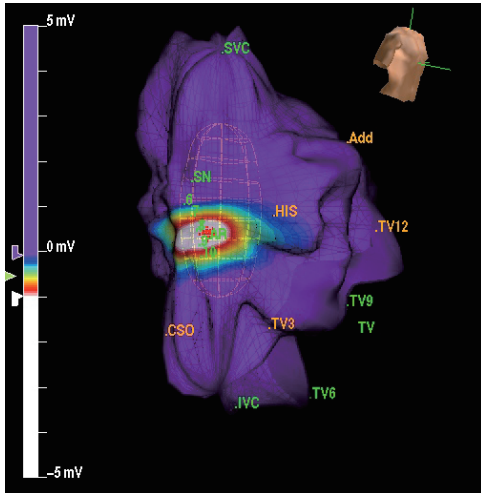


胸痛センターホットライン
37-3199（専用回線）
をご利用ください

ワンポイントレクチャー

不整脈治療のためのエンサイト

文責：富田 威

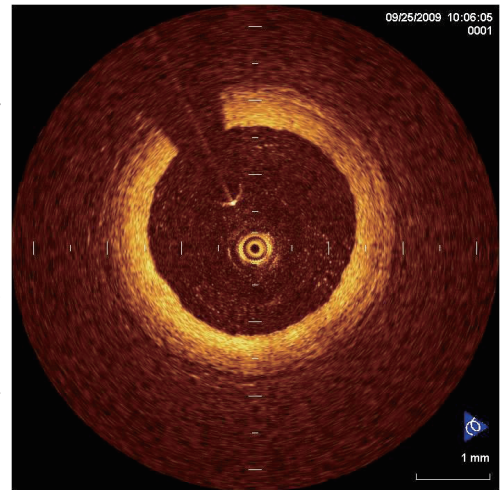


4月に県内で初めて導入される EnSite (NavX) システムは不整脈治療の適用拡大が期待できる最新鋭の技術が搭載されております。EnSiteシステムは心臓の解剖学的情報と電気的情報を同じ三次元画像上に表示し(3Dマッピングシステム)、さらに治療用カテーテル位置も同一画面上で確認できるため、複雑な不整脈治療を簡便に確実に遂行することが可能となります。既に当院に導入されているCARTOシステムとの違いは電気的情報を1心拍で収集可能なことです。この利点により検査治療時間の大幅な短縮と、期外収縮等のこれまで起源の同定が困難であった非持続性不整脈の根治も期待できます。(図は右心房起源の心房頻拍画像)

冠動脈評価のためのOCT

文責：熊崎節央

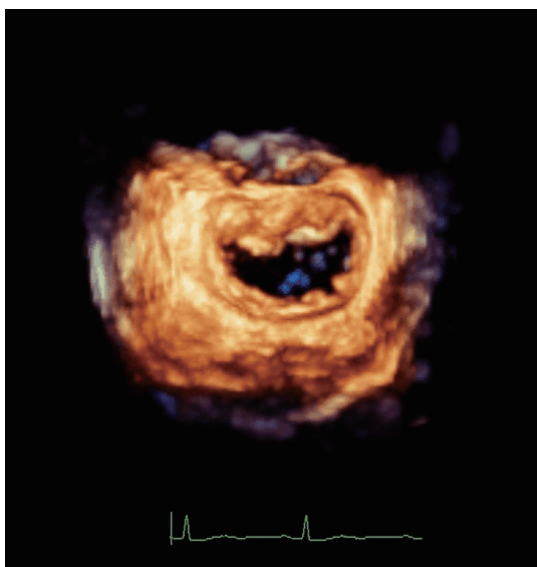
平成20年11月に第2血管撮影装置更新に伴い、新たにOCT装置の導入をいたしました。OCTとは“Optical Coherence Tomography”の略で、日本語では「光干渉断層撮影法」と呼ばれています。最初は眼科領域で臨床応用された技術ですが、近年循環器領域にも応用されました。当院では既に40例以上施行しましたが、その特徴は血管内超音波(IVUS)の約10倍の解像度にあります。今まで観察困難であったDESの新生内膜の確認や、不安定プラーク・冠動脈内膜表面の詳細な観察が可能となりました。現在、長野県でOCTが導入されているのは当院のみであり、今後は臨床的な有用性の確立および色々な臨床研究を進めていく予定です。



(図は正常冠動脈)

三次元(3D)心エコー

文責：小山 潤



従来的心エコーは2次元表示で、心臓の断面を表示することで心機能の評価を行ってきました。最近臨床応用が可能となった三次元心エコーは、ピラミッド型に超音波の送受信を行い、立体的な心臓の情報をリアルタイムに行うことが可能になりました。その結果、立体的な構造を示す弁の機能や、左室の容積の正確な計測が可能となりました。特に、経食道心エコーを用いた大動脈弁、僧帽弁の評価は弁膜症の機序や治療を考える上で多くの情報をもたらし、弁の逸脱などの情報を一見して理解できるツールとなってきており、とりわけ術前の評価に威力を発揮するものと期待されています。

(図は経食道3D心エコーにより左房側からみた僧帽弁)

ご質問・ご要望などございましたら、37-3352までご連絡ください。

信州大学医学部附属病院循環器内科 〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1